

## 小学校・低学年・導入

●所要時間 約5分 ●準備するもの 特になし

# みんなにとって、大切な人は？

## 効果・ねらい いのちの大切さを知る

自分にとって「大切な人」に思いを馳せることで、それは立場をかえてみれば、「自分が家族を含め、いろいろな人に愛され・守られて生きている」ことに気づいてもらう。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

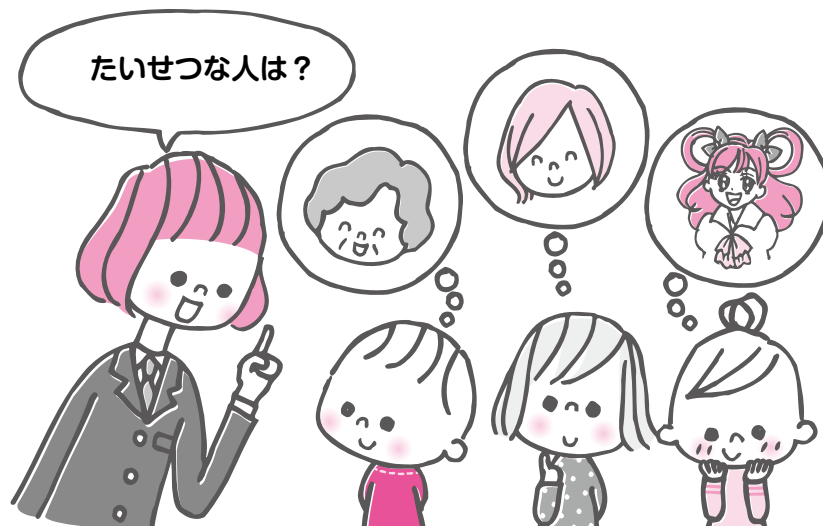
小学校高学年

### 【指導方法】

- 子どもたちに、「自分のいちばん大切な人」を思い浮かべてもらい、発表してもらおう。家族などのほかに、テレビのキャラクターの名前などが出ることがあるかもしれないが、それはそれでよい。
- いろいろな意見が出たところで、その人が傷ついてしまったらどう思うか問いかけをする。
- 問いに対して、「びっくりする」、「すごく悲しくなると思う」など、思うことを発表してもらおう。親や先生も同じように、みんな(子どもたち)のことを大切に思っているので、傷ついたら悲しむことを伝える。ポイントは、自分が元気でないと悲しむ人がいることを感じ取らせること。
- 自分が元気でなくても、大切な人が元気でなくても、たくさんの人が悲しい気持ちになることを知る(自分は愛されていることを知る)ことで、自分の存在「いのち」が元気であることが、いかにだいじかを感じ取ってもらう。

### 【指導者の声かけ・ヒント】

- 「みんなにとって、いちばん大切な人って、だれだろう？ よく考えてみてね」  
子どもの人数が多いときは、挙手してもらい、いく人かに発表してもらおうとよい。
- 「もし、みんなの大切な人が、病気をしたり大ケガをしたり、どこかへ連れて行かれてしまったら、みんなはどう思う？」
- 「今度は反対を考えてみようね。もし、みんなが病気になったり、大ケガをしたり、だれか悪い人に連れて行かれてお家に帰れなくなったりしたら、その(大切な)人はどう思うと思う？」
- 「いのちが傷つけられたり、元気でなくなったり、失ってしまうことが、いちばん悲しいことなんだね。みんなの大切な人を悲しい気持ちにさせないためにも、「いのち」をだいじにしようね。今日は、その「いのち」を、どうやって守ったらいいかのお話をします……」



## 小学校・低学年・導入

●所要時間 約5分 ●準備するもの 特になし

# お出かけするときに気をつけることは？

## 効果・ねらい 外出時の危険を知る

子どもたちに、“いつも出かけるときに家の人と約束していること”“注意されること”をあげてもらい、外出時の危険と約束を守ることの大切さを確認させる。

### 【指導方法】

●子どもたちに、出かけるときに気をつけることを、自由にあげてもらおう。「お出かけ」も、場所や時間、人数などの違いで状況が変わるので、具体的なシチュエーションを提示してあげると、子どもたちも答えやすい。

●ここでは正誤の答えを求めるのが目的ではなく、これから学ぶことにつながるよう、子どもたちの意識を“身の回り・外出時の危険”について、持っていくことがだいじ。

### 【指導者の声かけ・ヒント】

●「お出かけするときには、どんなことに気をつけたらいいかな？ 家の人と、どんなことを約束しているかな？」

例1「家の人とお店に買い物に行くときは、どんなことに気をつけたらいいだろう？」

参考)→家の人と離れて勝手にお店の中を見に行かない、かならず手をつなぐ、迷子になったらお店の人に言う、など。

例2「友だちと公園に遊びに行くときには、どんなことを気をつけたらいいかな？」

参考)→家の人に“だれとどこに行くか”“何時に帰るか”をちゃんとってから出かける、車に気をつける、暗くなる前に家に帰る、など。

●「みんな、お出かけのときは、いろんなことに気をつけているんだね。家の人も、みんなのことをとても心配しているから、いろいろ約束をしたり、注意をしたりするんだね。

それでは、今日はもう一度、お出かけするときどんなことに気をつけたらいいかをみんなで見ようね……」

お出かけするときは、迷子にならないように、お家の人と手をつなごうね！



## 小学校・低学年・展開 1

- 所要時間 約15分
- 準備するもの クイズパネル5枚ほど

# “ひとり”になったらどうする？ クイズ

## 効果・ねらい 危険回避 / 意思表示

外出先でもっとも危険なのが、ひとりで行動しているときであり、ひとりにならないためには何に気をつけたらよいか、またひとりになったときにはどのような点に気をつけるのかを、子どもたちに考えさせる。

就学前  
(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

### 【指導方法】

●指導者はクイズパネルを1枚ずつ子どもたちに見せながら問いかけ、○か×か答えてもらう。クイズパネルを使わない場合は、クイズ用紙を子どもたちに配るとよい。(口頭だけでは問題を聞き逃す子もいるため。またこの用紙は、おさらいにも使える)

#### クイズ内容

Q1 友だちと遊んでいて、友だちが帰っても、まだ遊びたかったらひとりで遊ぶ。

Q2 トイレにひとりで行くとき、なるべく奥の便器をつかう。

Q3 塾やおけいこ、友だちとの待ち合わせのとき、ひとりで道を歩くときは、たまに後ろをふりかえる。

Q4 迷子になったら、声をかけてきてくれた人になおについて行く。

Q5 エレベーターは操作ボタンに手が届くようになったら、ひとりで乗ってもいい。

●○×は手を挙げてもらってもよいし、「○はこちら、×はあちら」と、子どもたちに場所を移動してもらってもよい。こうするとゲーム性が増して、子どもたちにもより楽しんでもらえる。

●○×の答え・理由を、わかりやすく解説する。

●再度パネルを見せて、おさらいをする。

### 【指導者の声かけ・ヒント】

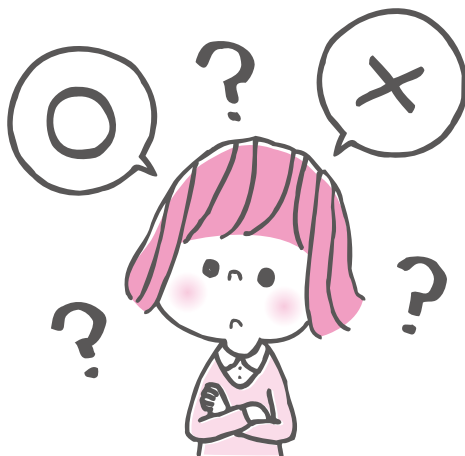
A1 ×→ひとりで遊んでいると狙われやすいので、まだ遊びたくてもかならずいっしょに帰りましょう。

A2 ×→トイレは個室になっていて、誰がひそんでいるかわからないので危険な場所です。何かしようとする人は奥に隠れていることが多いので、ひとりのときは入口で止まって中の雰囲気を確認した後、かならず入口近くの手前の便器を使いましょう。

A3 ○→前から近づく危険だけでなく、後ろからくる危険を早く知るためにも、たまに後ろを振り返りましょう。後ろを振り向く行動は、警戒しているように見えます。

A4 ×→迷子になったとき声をかけてきてくれた人が良い人とは限りません。騙して連れ去ることもあります。できる限りその場を動かずに、大声でお家の人の名前を呼んで周りの人に迷子になったことを伝え、店員さんに来てもらうようにしましょう。迷子になったことを恥ずかしく思って自分で探そうとすると、かえって危険です。

A5 ×→エレベーターは扉が閉まったら誰も助けに來られない危険な場所です。操作ボタンに手が届くようになっても、なるべくひとりで乗らないようにしましょう。ひとりで乗るときの立つ場所や逃げ方をしっかり学びましょう。



## 小学校・低学年・展開 2

●所要時間 約15分

●準備するもの 防犯標語を記したパネルや用紙など

# 防犯標語を使って楽しく防犯を学ぶ・I

効果・ねらい 危険予測／危険回避／意思表示／相談・報告

リズムあることばでつくられた防犯標語を楽しく覚え、防犯の基本をわかりやすく身につけてもらう。教材(ビデオやDVD、紙芝居など)で学習した後に復習的に学ぶと効果的。

### 【指導方法】

●パネルなどを使い、子どもたちにことば一つ一つについてどのような内容があてはまるのかを考えさせる。このことばを覚えておくことがなぜ大切なのか、ひとつひとつの行動について、その状況や対処方法を交えながら説明する。

※大切なことをしっかり覚えてもらうために「いかのおすし」があることをしっかり説明する。

●最後におさらいをする。

例)指導員がリードをし、子どもたち全員で、標語を一つずつ読み上げる。

※参考：ふりかえり用紙 (p.65)

防犯教室開催時に子どもたちに配布して利用してもよいし、終了後に復習用紙として利用することもできる。

## ●いかのおすし



**いか** ……知らない人について**いか**ない



**の** ……他人の車に**の**らない



**お** ……**お**おこえを出す



**す** ……**す**く逃げる



**し** ……何かあったら**す**く**し**らせる

## 小学校・低学年・展開 3

- 所要時間 約15分
- 準備するもの 特になし

# 声をかけられたとき、どうする？

## 効果・ねらい 危険回避 / 意思表示

だれかに声をかけられたとき、車の中から声をかけられたときの対応方法。はっきりと断ること、相手と距離を取ること、逃げる方向などを学ぶ。

就学前（幼児）

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

### 【指導方法】

● まず、だれかに声をかけられたときにどう対応すればよいかを具体的に説明する。（子どもたちに意見を述べさせてから説明してもよいし、DVD教材などを見ていれば、おさらいすればよい）

● 代表の子ども（数人）に前に出てきてもらい、指導員（もしくは先生）が不審者に扮して、いろいろなパターンでロールプレイする。

● 中には見えていて怖がる子どもがいるかもしれないので、不審者役は、あまりリアルにならないように配慮する（服装・声のトーンや表情・追いかけるしぐさなど）。ここでだいじなのは、“相手（不審者）の誘いをきっぱりと断る”、“相手との位置をどこにおくか知る”、“距離をとる・逃げる方向を知る”こと。

● ロールプレイが終わったら、その都度、トライした子どもをしっかり評価して（ほめて）から席に戻すようにする。

### 【指導者の声かけ・ヒント】

● 「もし、みんなが学校帰りに一人になったときや、外で遊んでいるとき、だれかに声をかけられたら、どうしたらいいだろう？  
こんなふうにいるんな言葉で話しかけてきたら、みんなだったらどうしたらいいかな？」

#### ロールプレイのやり方

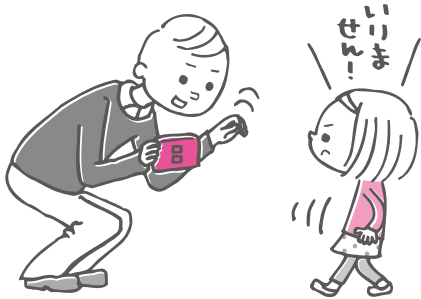
● 例

不審者（役）：子どもの好きなもの（お菓子、おもちゃなど）を見せながら、気をひくように声をかける。

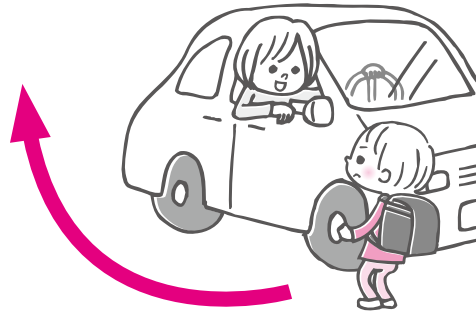
「こんにちは。ねえ、きみ、このおもちゃ知ってる？ これ好き？ 一つあげようか？ あっちにたくさん持ってきているから、いっしょに見に行かない？」

子ども：「いりません！」、「行きません！」  
全速力で逃げる。

● 「悪いことをしようとする人は、場所を移動させようとするところがあるよ。“人の目の届かないところ”、“連れ込みやすいところ”、“声を出しても聞こえないところ”などがそう。みんなをだまして連れて行くために、いろいろなウソをつくんだよ。だから、どんなことを言われても絶対に信じてはだめ。話のなかで、今いる場所からどこかへ行こうと声をかけられたら、すぐに離れるようにしようね」



話しかけられたら、まず相手と距離をとる。巧みな誘い言葉には、きっぱりと断る。つかまれそうになったら、体をかわして全速力で逃げる。（p.43 参照）



車から声をかけられたら、ドアが開いても引き込まれない位置「サイドミラーよりボンネット側」に立つ。逃げるときは防犯笛やブザーを鳴らし、大声を出しながら、車の進行法方向と逆の方向へ走って逃げる。

## 小学校・低学年・展開 4

- 所要時間 約15分
- 準備するもの 特になし

# つかまえられそうになったときに 素速く逃げる方法

効果・ねらい 危険回避／意思表示

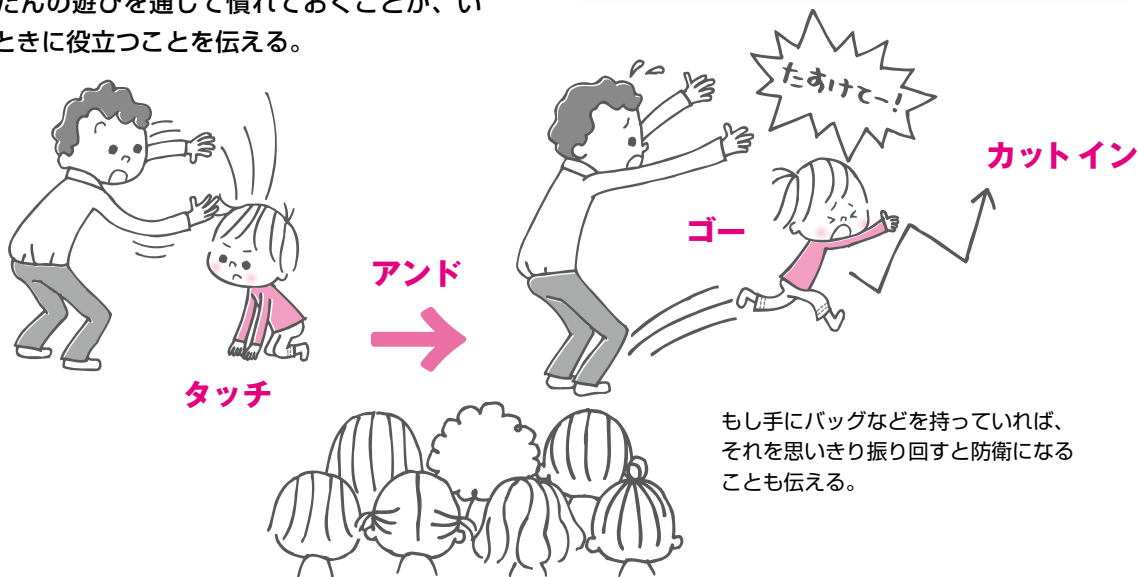
だれかにつかまえられそうになったときに、大人と子どもの身長差をいかして、相手の不意をついて逃げる方法。

### 【指導方法】

- 代表の子ども（一人）に、前に出てきてもらう。
- 指導者と子どもが1対1で向き合い、指導者が子どもをつかまえようとするしぐさをやる。このとき、どうやったらつかまえられないように身をかわせるかを子どもたちに考えさせる。
- いま一度、子どもにモデルになってもらい、やり方を説明する。
  - タッチ → 地面を手でタッチするように、すばやくしゃがむ。こうすることで相手の視界から消える。
  - ゴー → しゃがんだら、すぐに身を翻して逃げる。このとき、「助けて!」、「だれか来て!」などと、大きな声を出す。
  - 応用・カットイン → 逃げるとき、一方向に逃げるより、ジグザグに逃げると、相手につかまりにくい。
- 何人か代表の子どもに出てきてもらい、実際にやってみる。終わったら、それぞれの子をしっかり評価する。
- 防犯教室のときだけでなく、運動会の種目に入れたり、ふだんの遊びを通じて慣れておくことが、いざというときに役立つことを伝える。

### 【指導者の声かけ・ヒント】

- 「こうして、わたしが両手でつかまえようとしたら……君だったら、どうやって逃げるかな?」。「みんなだったら、どうする?」と、子どもたちの意見を聞く。
- 「みんなくらいの年齢の子は、大人と背の高さがずいぶん違うよね。だからこうしてスッとしゃがまると、つかまえようとしている方は、腕が空振りしてアレレ……となってしまうんだ。そのスキに、全速力で逃げればいいんだね」
- 「逃げるときは、自分の中でも最大級の大声で、“助けてー!”とか“だれか来て!”と叫んで、助けを呼ぼうね」
- 「上手にできたね。でも、もし学校帰りなどに、だれかにほんとうにつかまりそうになったら、怖くて体がかたまってしまうと、こんなふうにはできないかもしれないよね。だから、ふだんから練習をしておこう。休み時間に、お友だちと練習してみるといいね」



もし手にバッグなどを持ってれば、それを思いきり振り回すと防衛になることも伝える。

## 映像教材の利用について

子どもたちの映像教材への関心は高く、短い時間で要点を絞って教えたいときに効果的です。防犯教室を実施する学齢や、学校側が取り扱ってほしいテーマなどに合わせて教材を選び、活用しましょう。

### 【指導方法の注意点】

●子どもたちに映像を見せることを伝え、「お口は閉じてね」「おしゃべりしていると音声が聞こえなくなります。静かに見ましょう」など、静かに視聴することを約束させる。

●映像教材を一方通行で見せるだけでなく、途中で映像を止めて質問を投げかけたり、終わってから質問し直したりして、自分の問題として考えさせる。

・「映像ではこんな危険があったけれど、ほかに思いつく危険はあるかな？」

・「こんなとき、みんなだったらどうする？」

・「今、主人公はこういう行動をしたけれど、他に自分の体を守る方法はあるかな？」など。

●視聴中・視聴後、子どもの表情や様子には十分気をつける。映像を見て怖がっている子や表情に変化の見られる子がいれば、先生に子どものそばについていてもらう、無理に最後まで視聴せずに先生といっしょにその場を退席するなど、学校と協力の配慮が必要。

●視聴後にはかならず、子どもたちが安心するような言葉かけを。

「こういう映像を見たら、外に出るのが怖いと思ってしまうかもしれません。実際に、こういう危険があるのは確かですが、でもみなさんのまわりには、お父さんやお母さん、地域のパトロールの方たち、おまわりさんなど、みんなを守ろうとがんばってくれている大人がたくさんいます。だから怖がらずにのびのび過ごしてくださいね」

●時間があれば、映像教材の他にこんな事例もあるよと紹介するとより理解が深まる。

### 〈参考映像教材〉

#### ●就学前～小学校全学年向け

「ざわざわ森のがんこちゃん  
ここはあぶないよ！ あそこはだいじょうぶ！  
子どものための防犯マニュアル」



(35分)  
監修：小宮信夫（立正大学教授）  
協力：警察庁  
共同製作：（財）全国防犯協会連合会  
株式会社 NHK エンタープライズ  
助成：（財）社会安全研究財団

#### ●小学校・低～中学年向け

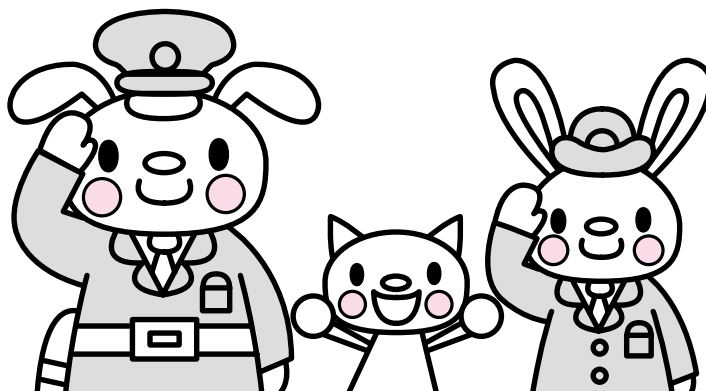
「子ども安全ビデオマップ  
～ぼくやわたしにもできる、  
犯罪から身を守る秘けつ～」



(20分)  
監修：警察庁  
企画製作：（財）全国防犯協会連合会  
（財）社会安全研究財団

※上に紹介した二つの教材は、各都道府県警察に配布済み。

## 小学校・低学年 まとめ



### 【基本】

防犯意識を高め、定着させるためにも、

- その日習ったことの要旨をふりかえらせる。
- 習ったことを、友だちや家の人と、生活の中で話し合う機会を持たせる。

### ポイント

- その日学んだことのおさらい（ふりかえり）は、子ども自身に発表させる。

※学んだことを子ども自身に発表させることで、内容の定着をはかります。

※防犯教室開催中、特に怖がる様子が見られる子がいたら、先生につき添ってもらってその場を退席させるようにしましょう。もし今までに何か怖い経験をしたことがあれば、心のケアが必要かもしれません。専門医の診断を受ける方法もあることを学校側に伝えましょう。

### 〈参考：しめくくりのことば〉

「今日はたくさん怖い話をしたけれど、世の中には怖い人ばかりではなくて、みんなを守ってくれる人もたくさんいるから安心してくださいね。  
登下校を見守ってくれるお父さんやお母さんたち、地域の見守り隊の人たち、おまわりさんなどに会ったら、感謝の気持ちをこめて挨拶ができるといいですね」